

■コメント

1. RSウイルス感染症

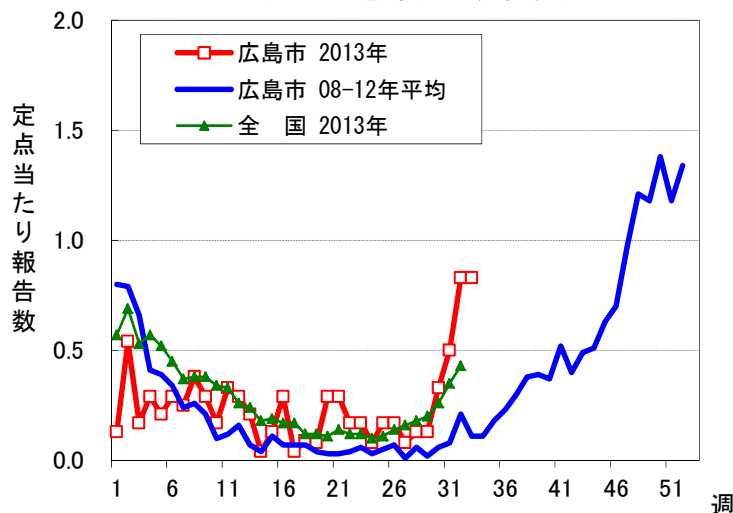
定点当たり0.83人報告されており、例年同時期と比べ多い状態となっています。全国的にも増加傾向であることから、注意が必要です。

RSウイルス感染症は、年齢を問わず繰り返し感染しますが、年齢が低いほど重症化しやすく肺炎や気管支炎を引き起こすことがあるため、乳幼児は速やかに医療機関を受診して治療を受けることをお勧めします。

2. 無菌性髄膜炎

3週続けて6件(定点当たり0.86人)の報告があり、例年同時期と比べ多い状態が続いていますので、注意が必要です。(次頁参照)

RSウイルス感染症の流行状況



第33週はお盆期間中であり、医療機関の休診の影響で、実際の患者数よりも少なく報告されている可能性があります。そのため、「定点把握感染症報告状況(週報対象)」(下表)の発生記号の表示を行っていません。

■定点把握感染症報告状況(週報対象)

疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号
インフルエンザ	-	-	0.09		ヘルパンギーナ	14	0.61	1.24	
咽頭結膜熱	21	0.91	0.42		流行性耳下腺炎	4	0.17	0.69	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	17	0.74	0.39		RSウイルス感染症	19	0.83	0.11	
感染性胃腸炎	55	2.39	2.48		急性出血性結膜炎	-	-	-	
水痘	9	0.39	0.67		流行性角結膜炎	2	0.25	0.94	
手足口病	48	2.09	1.16		細菌性髄膜炎	-	-	0.06	
伝染性紅斑	-	-	0.20		無菌性髄膜炎	6	0.86	0.11	
突発性発しん	9	0.39	0.54		マイコプラズマ肺炎	-	-	0.29	
百日咳	-	-	0.04		クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減
微増減	↖	↙	前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	36
小児科定点数	23
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	4	119	男性(30歳代)・1人、女性(60歳代)・1人、男性(90歳代)・2人
3	細菌性赤痢	1	1	女性(20歳代)・推定感染地域: 国外
4	レジオネラ症	1	7	男性(50歳代)
5	風しん	1	32	女性(10歳未満)

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

		インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
報告数	第29週	-	46	12	93	15	281	1	10	-	26	8	3	-	13	-	2	-	-
	第30週	-	36	31	108	20	246	2	12	2	25	11	8	-	10	1	1	-	-
	第31週	-	34	25	133	13	187	-	11	1	27	8	12	-	9	-	6	1	-
	第32週	-	35	22	99	21	157	-	13	-	28	6	19	1	11	-	6	2	-
	第33週	-	21	17	55	9	48	-	9	-	14	4	19	-	2	-	6	-	-
定点当たり	第29週	-	1.92	0.50	3.88	0.63	11.71	0.04	0.42	-	1.08	0.33	0.13	-	1.63	-	0.29	-	-
	第30週	-	1.50	1.29	4.50	0.83	10.25	0.08	0.50	0.08	1.04	0.46	0.33	-	1.25	0.14	0.14	-	-
	第31週	-	1.42	1.04	5.54	0.54	7.79	-	0.46	0.04	1.13	0.33	0.50	-	1.13	-	0.86	0.14	-
	第32週	-	1.52	0.96	4.30	0.91	6.83	-	0.57	-	1.22	0.26	0.83	0.13	1.38	-	0.86	0.29	-
	第33週	-	0.91	0.74	2.39	0.39	2.09	-	0.39	-	0.61	0.17	0.83	-	0.25	-	0.86	-	-
全国	第31週	0.02	0.58	0.95	3.24	0.66	8.66	0.06	0.64	0.01	3.26	0.28	0.35	0.01	0.68	0.02	0.10	0.39	0.03
	第32週	0.02	0.54	0.80	2.93	0.60	7.95	0.06	0.58	0.01	2.92	0.22	0.43	0.01	0.74	0.02	0.09	0.38	0.03

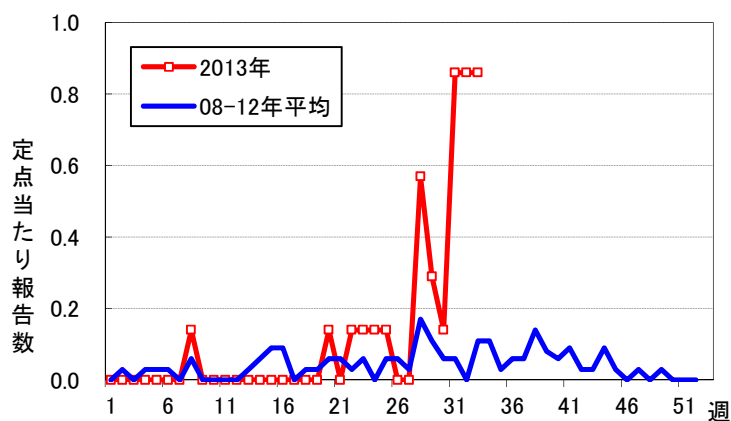
■新たに判明した病原体検出状況

(検査:広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
無菌性髄膜炎	発熱(39.0) 腹痛 嘔気・嘔吐 髄膜炎	5	女	2013/07/07	咽頭拭い液 糞便	エコーウイルス6型
無菌性髄膜炎	発熱(39.4) 嘔吐 髄膜炎	5	不詳	2013/07/08	髄液	エコーウイルス6型
その他の呼吸器疾患	発熱(40.0) 気管支炎 喘鳴	2	女	2013/07/06	鼻汁(拭い液)	パラインフルエンザウイルス1型
その他の疾患	発熱(38.0)	0	男	2013/05/23	咽頭拭い液	ライノウイルス ヒトホカウイルス
					咽頭拭い液 糞便	アデノウイルス5型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

【参考】広島市における無菌性髄膜炎の流行状況



髄膜炎は髄膜(脳や脊髄を保護している膜)が炎症を起こす病気で、このうち髄液(脳や脊髄と髄膜の間を満たしている液体)の中に細菌が認められないものを無菌性髄膜炎といいます。

無菌性髄膜炎のほとんどはウイルスが原因で、特にエンテロウイルスの割合が多く、手足口病やヘルパンギーナと同様、夏期に流行する傾向にあります。

年齢別では乳幼児から学童にかけての年齢層が多く、主な症状は発熱、頭痛、嘔吐、項部硬直(首の後ろが硬くなり前に曲げにくくなる)などです。これらの症状がある場合は、早めに医師の診察を受けることが大切です。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2013年第33週(8月12日～8月18日)